

先人学習 記事とテキストで 奥州・水沢南小

奥州市の水沢南小（佐藤浩司 校長、児童559人）の6年1組 35人は今月中旬、総合的な学習の時間に、同市出身で音楽家の

故大滝詠一さんについて学んだ。指導した多田俊輔教諭（40）は、市教委が作製した「ふるさと学習テキスト」と、プラス日報で調べた記事を活用。子ども



新聞記事を示しながら、故大滝詠一さんの曲が多くの人に与えた影響について説明する多田俊輔教諭



故大滝詠一さんに関する記事を読み、奥州市民の思いをワークシートに書き込む水沢南小6年の児童

たちは、大滝さんの曲が地域の誇りとなっていることを知り、ふるさと奥州への愛着心を育んだ。

「この曲を知っていますか」。授業の冒頭、多田教諭は大滝さんの代表曲「君は天然色」を流した。軽快なサウンドに体を揺らしながら鑑賞する児童に「この曲を作った大滝詠一さんについて学んでいきましょう」と呼びかけた。

まず、市教委が2年かけて作製し、本年度、児童生徒に配布したふるさと学習テキストを使い、大滝さんの経歴や功績について学習。旧梁川村（同市江刺）生まれということ、音楽制作やプロデューサーとして幅広く活躍したことなどを知った。

次に、多田教諭は授業支援アプリ「ロイロノート・スクール」

で大滝さんについて報じた記事4本を児童に共有。子どもたちは、記事の中から「岩手の誇り」「（曲の）魅力を知ってほしい」などのコメントをワークシートに書き写し、大滝さんに対する市民の思いを読み取った。

猪股稜央さんは「大滝さんの曲は多くの人に影響を与えたことが分かった」と学びを深め、畑山智紀さんは「記事から、地域の人が大滝さんを誇りに思う気持ちが伝わってきた。ふるさと奥州を大切にしていきたい」とうなずいた。

多田教諭は「過去記事にすぐにアクセスできるのがプラス日報の利点。記事に掲載されている市井の人の声や思い、願いを読み取ることで、より深い学びにつなげることができる」と効果を語った。



奥州市教委が児童生徒向けに作製したふるさと学習テキスト



指導案・ワークシートはこちら

利用できる機能は？

①デジタル版紙面の閲覧②過去約20年分の記事検索③新聞記事を題材にしたワークシート④新聞製作ソフトなど。そのほか震災復興やふるさと学習、進路学習をサポートするコンテンツを提供しています。

どう使われている？

朝学習で新聞を読んだり、行事を振り返る個人新聞作りなど多様に活用されています。2025年度当初時点で、県内の公立小中学校の約40%の学校が利用しています。

ご依頼はこちら！

「+日報」についてより詳しく知りたい方は、岩手日報社プラス日報事務局の専用フォームからお問い合わせください。

